

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

2015

5

May

特集 「公民館へようこそ」阿賀野市中央公民館館長・見原健司

4.5

- 2 **トピックス** 関プロ開催 今年は東京都
- 3 **視点** 「循環型生涯学習の拠点として」 上越教育事務所 社会教育課長 福保 雄成
- 3 **ひろば** 「人が集う場の力」 上越市社会教育委員・公運審委員 渡邊 恵美
- 6 **実践記録シリーズ** 「自然の体験！みんなで発見！今年も青研！」 新潟県立青少年研修センター
- 7 **サークル交流** 「自由に楽しく遊ぶ」(燕市) / 「日本画の魅力を伝え受け継ぐ」(三条市)
- 7 **素顔拝見** 柳川 正晴さん(村上市) / 佐藤 秀俊さん(柏崎市)
- 8 **お元気ですか** 「夢は80歳になってから 日本中歴史探訪」関川村・船山 勝雄さん
- 8 **恵贈資料紹介** ネットワーク



子育て志縁隊「このゆびとまれ！」ワイワイひろば（新潟市）

表紙解説

運営スタッフと協力し子育てサロンを開設しています。今年度の一年をスライドショーで振り返りました。いつもワイワイ楽しいサロンです。

関ブロ開催 今年も東京都

今年の関東甲信越静公民館研究大会(関ブロ大会)は東京都で開催されます。東京都公民館連絡協議会では、大会開催に向けて準備を進めています。

例年は、2日間の日程で8月に開催されていますが、東京都公連の事情により次ぎのとおり開催になります。

大会開催日

平成27年11月14日(土)

開催概要を審議・理事会
(東京・国分寺市)



4月現在までに決定している開催概要は次のとおりです。

1 大会テーマ

「公民館 その新たな可能性」
〈東京発、戦後70年目の温故知新〉

2 会場

ルネこだいら
東京都・小平市
*西武新宿線「小平駅下車」徒歩3分

3 大会日程

9:30 受付
10:00 スタート
(ジャズ演奏、江戸芸かっぱれ)
10:30~11:30 開会式
11:30~12:30 基調講演
講師 末元 誠
(元神戸大学教授)
演題(仮)
「ESD(持続可能な開発のための教育)と公民館について」

(昼食・休憩)

13:45~16:00

シンポジウム
コーディネーター
上田 幸夫
(日本体育大学教授)
パネリスト
末元 誠
(元神戸大学教授)
木下 巨一
(長野県飯田市公民館)
井口啓太郎
(東京都国立市公民館)

大会会場・ルネこだいら



関東甲信越静公民館連絡協議会事務局
国分寺市並木公民館
〒185-0005
東京都国分寺市並木町

TEL 2-12-3
042-321-9971
FAX 042-301-1799
E-mail: namiki-kouminkan@city.kokubunji.tokyo.jp

5月15日(金)に国分寺市で今年度の第1回理事会が開催されます。佐藤会長(関ブロ監査役)と田原事務局長が出席します。

大会の詳細が審議される予定ですが、本紙6月号の記事として掲載いたします。また、開催要項と参加申込書は、大会事務局から届き次第各市町村中央公民館にお届けします。

大会会場は交通のアクセスが良いところです。どうぞ多数の参加をお願いいたします。

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711

視点

「循環型生涯学習の 拠点として」



上越教育事務所 社会教育課長 福保 雄成

二十年ほど前、上越視聴覚ライブラリーに勤務し、管内の公民館事業の講師として、ビデオ編集やOHP活用、コンピュータ活用等の講座に出向きました。参加者は、幅広い年代の皆さんでしたが、学習意欲の高さを感じ、私もお役に立てるようがんばったことが印象に残っています。

現在、上越教育事務所勤務し、改めて管内の生涯学習を見つめ直す機会を得ました。公民館事業や生涯学習課主管の事業、NPOの活動が着実に進展していることが分かりました。

その活動の一つ、「PCネット」は、高齢者コンピュータ講座で学習したことを社会に役立てたいという思いから結成され、現在では、高齢者パソコン教室を開催するまでに至りました。その活動を『上越の生涯学習』にご寄稿いただいたところ、結びの言葉として「生涯学習の先達となる意気込みで、今後も持続可能な好奇心を養いつつ、高齢者の活動を支援するサークルでありたい。」とありました。自らの学びを社会に生かす、正に、循環型生涯学習の一つの好事例かと思えます。

上越管内には、数多くの公民館があり、それぞれに特色ある活動を行い、循環型生涯学習社会を目指す重要な役割を担っています。

金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」の一節「みんなちがってみんないい」のごとく、特色ある取組の推進に期待しております。

H O T N E W S

掲 示 板

ホームページ公開中

本会のホームページが新トップページになりリニューアルしました。

「新潟県公民館連合会」をキーワードに簡単にアクセスできます。

公開情報は「ホーム」「連合会組織」「各地区公連の活動」「トピックス、ネットワーク、掲示板」「過去の月報」の5部門で、それぞれにトップページからアクセスできます。

また、県内全公民館の所在地、電話番号等の情報は本年度から「公民館名鑑」として公開せず、本ホームページにて公開します。

新情報は早く更新して皆さまにお届けします。



「人が集う場の力」

上越市社会教育委員・公民館運営審議会委員 渡邊 恵美

上越市桑取・谷浜地区で毎年秋に行う「くわどり収穫祭」の実行委員会が、この度「くわどり・たにはま食のまかないガイドブック」を作成しました。1年間をかけ、この地域における農産物や加工品等の生産・加工・販売にかかる取材や写真撮影を行い、四季を通じた食の恵みや農作業風景などをまとめました。作成会議という名のお茶のみ会をしながら「そろそろナスが採れるよ」とか「こんな料理もおいしいよ。」など、地域の方々いろいろな教えて頂きました。また、「ガイドブックを作成しよう」という目的のもとに集まった人同士がお互いの農作業や農作物などについて語り合い、笑顔が飛び交う情報交換・地域交流の場ができました。この冊子を



地域内外の多くの人に見て頂きたいと、市内公民館・図書館をはじめ、小中学校や保育園にも配布したところ、「子どもや孫たちとの会話も弾むね。」との声も上がりました。ガイドブック作成およびその活用を通じて皆さんが「伝え・教え・学ぶ」ことの喜びを実感されたようで、私もうれしくなりました。「社会教育とは」と、難しく考えていましたが、「人が人と関わりお互いが学び合う場」が大切なのだと思わため感じました。



解決しようとする人づくりの視点が入るのです。その社会教育の活動拠点となるのが公民館です。



こいのぼり大作戦

手作りこいのぼり。子ども会活動が今や介護施設入所者の人たちも参加するようになりました。資金集めから事業全体を全て市民が行います。

住民の自治能力の向上

また公民館は、「つどう（集会と活用）」「まなぶ（学習と創造）」「むすぶ（総合と調整）」といった機能があり、学びに集まった人たちをつないでいくこと、結んでいくことに大きな特徴があります。そして、究極のねらいは自分たちの地域は自分たちで良くしていこうという「住民の自治能力の向上」にあるといわれています。

経済発展が著しいときの行政は、ハード面の施設を建設すること自体を目的にして、ソフト面については、ないがしろになりやすい宿命的な体質を持っていました。このことが住民の行政依存の風潮を助長してきたのではないのでしょうか。

しかし現在は、人員減や財政の悪化によりハード面はおろかソフト面でさえ厳しい状況となっており、多様化する地域課題に行政がすべて対応することができなくなっています。このため自分たちの地域は自分たちの力でという、自助努力によって築き上げられる住民パワーが強く求められるようになってきました。このことから市民参画や協働作業の歴史ある公民館に、住民の力を培う場として大きな期待が寄せられているのです。

公民館活動は住民が主役

若いころ、公民館職員をしていたことがあるのですが、ご多分にもれず反省すべき失敗経験をたくさんしてきました。その大きな1つが、公民館活動は住民が主役ということを実感しなくて突っ走っていたことです。

当時、青年教育を担当していた私は、地域の青年団や青年サークルと地域を盛り上げようと奮闘していました。「俺たちのまちは劇場だ！」とばかりに青年の集いなどさまざまなイベントを行い、それは張りのある楽しい毎日で、まさに公私混同するほど青年活動にはまっていたのです。

活動は苦勞が多いほど達成感や喜びも大きく、仲間と一緒に嬉しむことも倍増です。ところがリーダー的存在になってしまい、活動のすばらしい瞬間を多く得るようになっていったのです。本来は地域の青年たちが主役となって泣き笑いして得るべき感動体験を、公民館職員である私が一番感じていたという失態でした。まるで結婚式で新郎・新婦より司会者の方が目立っているようなもので、これではだれが主役なのかわかりません。

公民館活動の主体は住民であって行政ではありません。人と人をつなぐコーディネーターであり、考えを引き出す

ファシリテーターとしての役割を担うのが職員です。

人と人のつながり

激しい社会変化の波が押し寄せる今日、複雑化している社会といわれますが、私たちが本当に求めているのは、人と人とのつながりという実はシンプルなことのような気がしてなりません。なぜなら他人とのコミュニケーションの中で自分が広がり、さまざまな人たちとの出会いをとおして殻は破られるからです。地域資源とは人材のことです。それぞれの分野・領域・立場をこえての協力・協働・参画は、なんといたって顔でつながることであり、人と人とのつながりが一番です。

公民館活動で何をしていいのかわからないというのは、住民との関わりが少ないことを意味します。不思議と住民の皆さんとの関わりが盛んになるほど、私たちの出番や役割が与えられるようになってきます。地域には歴史や風土などがあり、その特性により公民館の取り組みは千差万別です。公民館の職員はどんどん地域に飛び込んでいくことが大切です。



市民の手づくりで開催された「まちづくりシンポジウム」。今回は、今日的課題である「若者支援を考えよう」をテーマで開催されます。社会教育では学習テーマを探っていくことも重要な学習です。

社会教育者になる

地域にいる人たちは、活力に満ちた元気な人だけではありません。さまざまな厳しい現実や状況を目の前にして、悩み苦しみながら必死に生活している人たちもたくさんいます。そして私たちが抱える地域の問題は単独で存在するのではなく、複雑に絡み合っています。

公民館の現場だけではなく、福祉や健康・商工・農政・企画部門など他の部局においても、課題解決へ向けた社会教育活動は必須です。言い方を変えるならば、公民館だけではなく、それぞれの部局においても、住民に接する職員は担当分野のエキスパートであると同時に、優れた社会教育者でなければならないということです。

公民館活動で身につけた社会教育は、そのときだけの一過性のもではありません。その知識や考え方、コミュニケーション能力、人脈等は、他の部局に異動しても十分に生かせる最大の財産となります。

おわりに

公民館職員としての専門性は、常に自分を高める努力の中から育ってくるのだと思います。「学ぶ」とは「変わる」こと、これから人と人とのつながりをつくりながら広め、共に学び合っていくことが肝要です。「公民館時代が人生の分かれ目だった！」と言えるような決定的な瞬間をつかみ取るようではありませんか。

特集

公民館へようこそ



阿賀野市中央公民館

館長 見原 健司

はじめまして

いかがお過ごしでしょうか。公民館への異動が決まったとき、夜や土・日もなく、人前で話すことも多くで大変だろうなあ……と思いませんか？ 外部から見るとそのように思われるかもしれません。でも仕事をしていくうちに、やりがいを感じてくるようになると思います。それは私たちの仕事は人々の幸せにつながっているからです。人生を豊かにする学習活動の営みを援助しながら、自分自身の人生も豊かになっていきます。ありがたいことです。

これからたくさんの人たちとの出会いがあります。会合や事業に行くときは「今日はどんな人と知り合いになれるだろう」と胸に期待を膨らませていきましょう。何気ない集まりでもきっと新しい発見があるはずですよ。

その出会いをより良いものにするための秘訣が「先手必笑」です。

誰もが初心者マーク

公民館職員は、「教育学」の専門家である学校の先生とは違い、講座や事業展開への専門知識や技術も学ばないまま、事務の引き継ぎだけでスタートすることになります。社会教育は生き物ですので、昨年うまくいった事業が今年もうまくいくとは限りません。つまづくことや今までのことが通用しないことも多々ありますが、適度な失敗経験も大きな学びです。

さまざまな研修参加を心掛け、実践を積み重ねながら公民館の特性を学んでいくことで専門性が身につけていきます。これからじっくりと、気負わず臆せずおおらかに、「見る」「聴く」「こだわる」「チャレンジする」の精神でいきましょう。



青空童夢(あおぞらどうむ)

公民館事業「青空童夢」に70人を超える若者が参加。「まちづくりは人づくり」を体現しました。

公民館の原点

迷ったら原点に戻れ！ といいますが、公民館は何のためにつくられたのでしょうか。これがすごいです。

公民館を考えたのは日本人で、国民自らの手によってつ

くられた施設です。敗戦によって荒れ果てた国土・郷土を立て直す原動力として構想されたもので、戦後1年も経たない1946年(昭和21年)7月5日、「公民館の設置運営について」という文部次官通牒によって全国に公民館の概念が与えられ広がっていきました。まだ日本国憲法や教育基本法が制定されていないときです。この構想をつくったのが、当時、文部省で公民教育課長をされていた寺中作雄さんという方で、「寺中構想」として表現されています。

その寺中さんが著した「公民館の建設」の冒頭「何故公民館を作る必要があるのか」に、当時の悲惨な状況と湧き上がる決意がうかがわれます。

ごく一部の紹介です。「…あくせくと一身の利に趨り、狂うが如く一椀の食を求めてうごめく人々の群。……武力を奪われ、国富を削られた日本の前途は暗く、家を焼かれ、食に飢える人々の気力は萎え疲れている。これでよいのであろうか。日本は果してどうなるのだろうか。…戦いに敗れた結果、仕方なく民主主義になるのだと思っはならない。…われわれは真に反省し、心の底から懺悔して、今こそわれわれの正しい方向に立かえり、平和と文化と民生の道に進もうではないか。方向は決まった、目標はついた。…」(『月刊公民館』2014年4月号から抜粋)

そして、公民館をつくった3つの理由が述べられています。

要約すると、①平和と民主主義の理念をきっちり身につけるため、②豊かな教養を身につけ、文化の香り高い人格をつくるため、③地域に産業を興し、地域の政治を立て直し、地域の生活を豊かにするためとなっています。

このように公民館は、個人の満足や豊かさだけでなく、地域社会の豊かさをみんなで考えてつくっていく地域振興・地域づくりの拠点としてつくられました。

戦後70年という節目を迎える今日、この考えは古いといえるでしょうか？ 自信を失い廃虚と化したどん底の世界から見いだした構想は、今もなお脈々と受け継がれるものであり、公民館に欠かせない重要な精神だと私は思います。

生涯学習・社会教育・公民館とは

新任職員でなくとも、生涯学習、社会教育、公民館それぞれの違いや理念を理解し、説明することはむずかしいものがあります。しかし公民館の役割を考えていくうえで、このことが大きなテーマとなっていきます。なぜなら、それぞれの違いを明らかにしていくことが、公民館の進むべき方向性や社会教育の在り方を考えることになるからです。

生涯学習は、私たちが生涯にわたって行う学習活動で、家庭・学校・職場・地域社会で行われるすべての学習活動を包括的にとらえ、生涯学習社会をめざそうという考え方です。

一方の社会教育と公民館活動は、その生涯学習の一部ですが、学ぶだけでは終わらない一歩踏み込んだ考えや機能があります。

たとえば、個人の要望や趣味に応える講座の場合、単に技術や教養を習うだけなら、自己実現や個人の満足を追求する個人学習で十分です。そこから交流や仲間づくりへと進展し、その成果が社会に還元され、より良い地域社会の実現をめざそうと行動に移す、この過程がまさに社会教育そのものです。主体的な学びと活動へと、意欲と行動を後押ししていくことが私たち公民館職員の役目です。

また、環境問題のポイ捨てなどを考えた場合、首長部局では、ポイ捨てをしないよう規制をしたり、モラルの呼び掛けを考えます。しかし社会教育は、ポイ捨てをしないようにするためにはどうすればよいのか、それを考えて実践する人材やグループの育成を考えます。つまり地域課題を

実践記録

206

シリーズ

「自然の体験！みんなで発見！今年も青研！」

新潟県立青少年研修センター

まずは環境と立地の紹介から…

- 当センターは佐渡弥彦米山国定公園の一角にあり、海と山の両方の体験が可能な好立地の施設です。小高い新潟砂丘の上に建ち、晴れた日には佐渡がくっきり見え、日本海に沈む夕日を楽しめます。
- 多くの方に親しまれている角田山。センターから登山口まで、車でわずか15～20分ほどです。
- 越前浜の海岸までは徒歩20分。遠浅の砂浜が広がり、海水浴はもちろん地引き網体験も可能です。
- ラムサール条約に登録された湿地「佐潟」も車で10分ほど。野鳥や水生生物の観察に最適で、周辺は遊歩道が整備されています。

ふだんの利用の様子は…

- 青研の目玉の一つキャンプファイヤー。丸太で井げたを組むところから研修生が行い、炎の高さは“自称”日本一！写真は終盤の「送り火のつどい」のトーチサービスですが、厳粛な気持ちで一日を締めくくることができます。
- もう一つの人気メニューは野外炊事。写真のように、砂地に穴を掘り支柱を立てて鉄棒を渡すだけの原始的なかまどですが、それが野性を目覚めさせます(?)。子どもだけでなく大人も熱中してしまうことうけあい！
- オリエンテーリングやウォークラリーなど野外活動が雨風で実施できない場合の屋内プログラムも豊富に準備しています。レクリエーションの要素を取り入れたインドアストレッチで体を動かしたり、物づくり体験のクラフト(創作活動)で思い思いの作品を仕上げたり、利用目的に応じてお考えいただけます。
- 「来たときよりも美しく」の合い言葉を、これまでの利用者の皆様が実行してくださったおかげで、45年目を迎えた施設も気持ちよくご使用いただいています。また、退所時に提出いただくアンケートに「臨機応変に、親切・丁寧に対応してもらった」「わかりやすい説明で、丁寧かつやさしく教えてもらった」といった言葉を見つけ、職員一同大変うれしく次への活力につながっています。

主催事業では多様なニーズにお応えします！

- 青少年指導者養成を目的とした「青研スキルアップセミナー」は年3回。レクリエーションや登山などを取り上げていますが、写真は昨年度のグループワークトレーニング研修「マシュマロチャレンジ」の一コマ。参加者からは「様々な価値観に気づき、自分の思考のプロセスを俯瞰(ふかん)することができた」などの声が寄せられました。
- 中学生が2泊3日、高校生が1泊2日のリーダーシップ研修は、満足度100%の青研のウリ。アンケートに「ここまでの達成感は生まれて初めて感じた!」と書いてくれた生徒もいました。写真は中学生のグループワークトレーニングの一コマ。「架空の町の開発」を課題として意見を出し合う中で、合意形成のプロセスを体験的に学びました。
- 夏・秋・冬の3回実施する家族対象の事業は、テント泊・海水浴・収穫体験等の野外活動や、クラフト・調理等の屋内活動など、季節に応じたプログラムを用意しています。家族の絆が深まったという声が多く聞かれ、大変人気の高い事業です。
- 地域の芸術家の方を講師に招き、ふだん使える物を作る「物づくり体験塾in越前浜」は年2回。「子どもに体験させたいと思い参加したが、親の方が夢中になってしまった」という声もありました。昨年度は粘土細工でスプーン・フォークを、染め物でハンカチを個性あふれる作品に仕上げました。

ご利用をお待ちしております!!



野外炊事



中学生リーダー研修



キャンプファイヤー



グループワーク



当会は、読んで字の如く、陶芸を楽しむ自由闊達に、且つ何歳になっても続けられることを願い命名致しました。毎週二回、それぞれの都合に合わせて、年一回、十月下旬か十一月初旬の作品展に向け、本当に作りたい物は何でも試し、又、大小も問わずに、作品を制作します。近隣の他の会の方も、展示会をご覧になられ、うらやましがられるくらいです。とにかく、これからもエネルギーの続く限り、みんなで楽しみながら作り

「自由に楽しく遊ぶ」

陶游会

り続け、年一回の作品展も多数の方から一緒に楽しんでいただけたら有難いと思っております。「今後も陶芸を通して、会員それぞれが楽しい人生を歩み続けたい。」それが心からの願いです。

燕市・陶游会

永嶋

明記



日本画の魅力を伝え受け継ぐ

日本画 創美会

結成から九十年余。名誉市民の岩田正巳画伯や日展、藤井啓玉氏、院展、荻根沢映泉氏も所属された歴史ある日本画の会です。

戦中戦後、食べ物物を節約してでも紙や絵の具を調達した

話を長橋楽仙子師から伝え聞いています。

現在、会員も高齢化が進み自然減も憂慮されます。後継者育成と日本画の魅力を伝える残すために、八年前に公民館を会場に「日本画初心者教室」を開講しました。鉛筆デッサンから顔彩による彩色へと進み、基礎講座後、水干、岩絵具使用の本画への創作を続けています。色紙や短冊小品から30号、50号、公募展への出品と、今最も活気に溢れる日本画のグループです。皆さん一緒に楽しく学んでみませんか。毎月2回、第2・第4火曜日、三条市中央公民館で16名のメンバーが仲間をお待ちしています。



三条市・日本画創美会

会長 阿部 涼子 記

神林地区公民館の社会教育指導員の柳川正晴さんを紹介します。

今年で2年目になった柳川さんの仕事は、主にブックスタートなどの子育て関係事業と60歳以上を対象とした長寿大学といった老若男女を問わない事業の企画運営をしています。普段は寡黙でコツコツと仕事をこなしていますが、チラシ作成などに力をいれていて、回を重ねるごとにみる



村上市神林地区公民館 社会教育指導員 柳川 正晴さん

みる上達しているのが目に見えて分かります。

私生活ではソフトテニスが得意で、昨年生まれたばかりの子がいる良きパパです。また職場では昼休みに職場のみなさんとスポレックで体を動かし、なみいる初心者たちに振り回されて汗だくになっている毎日です。

(村上市神林地区公民館 船山ケイ子 記)

昨年4月に当課に配属となった佐藤秀俊主事を紹介します。当課は市民プラザ内にあり、柏崎公民館を併設する複合施設となっていることから公民館職員として兼任辞令をもらっています。

異動直後は、当課の三大イベントの一つである柏崎潮風マラソンの準備、開催等の真只中に置かれ、右往左往しながら業務をこなしていたことを思い出します。

何分にも職種違いの職場からの異動で、最初は随分戸惑っていたようですが、根っからの



柏崎市生涯学習課

主事 佐藤 秀俊さん

素顔拝見

明るさと行動力を発揮し、今では、数年居たかのような存在感で職員や利用者から信頼を得ています。

日々、業務に励んでいる姿を見ていますが、自身のため、体調管理をして下さる方(花嫁募集中?)が居れば良いのと思う場面もあり、公私ともに、一段と躍進することを期待しているところです。

(生涯学習課 企画管理係 新田 栄喜 記)

恵贈資料紹介

新潟県内の生涯学習取組事例集・県立生涯学習推進センター／がんばってます・島根県公民館連絡協議会

県内市町村と県関係の生涯学習事業をまとめた平成26年度版事例集が県立生涯学習推進センターから発行されました。市町村の事例は、地域学習、子育て・青少年、文化・芸術、ボランティア、趣味・教養、その他特色のある活動として53事例が紹介されています。県関係では、生涯学習関係係行政・機関・施設等が33事例を187ページにわたって紹介しています。また、各事業のチラシや指導者情報も掲載され中身の濃い編集になっています。

島根県公連では県内の公民館実践事例、研修会等をまとめた「が



問い合わせ
県立生涯学習推進センター
〒950-8602 新潟市中
央区女池南3丁目1番2号
TEL 025-284-6110
FAX 025-284-6019

「がんばってます」を発行しました。この事例集は毎年3月に1年間の活動事例をまとめて発行され今回で第26号になります。70ページにわたり、平成26年度の特徴ある島根県内の事業を紹介している、活発な活動の様子が良くわかる編集になっています。問い合わせ
島根県公民館連絡協議会
〒690-8502
島根県松江市殿町1番地
TEL 0852-22-5459
FAX 0852-22-6218

お元気ですか



「夢は80歳にってから 日本中歴史探訪」
船山 勝雄 (岩船郡関川村)

私は、70才に成ったら、全国全市町村にある名所や遺跡などを巡り歩くことが夢でした。それには多くの役職や、スポーツ少年団の運営、子供達の陸上・野球の指導など役職を全部辞めることが前提ですが。それがスポ少の指導だけでは、指導者の都合で各種日夜間練習であり、子供達及び保護者の送り迎えの関係で昼練でなければならぬ子供からの要望がありました。それに応えるには昼練に毎日指導が出来る人は本村においては、年老いた自分が指導者として、今、少し残らなければならぬ成り、居乍ら、自分自身も陸上のマスターズの各種大会に出場させて頂いております。

昨年は、十数年ぶりに日本で開催された、アジアマスターズ陸上選手権大会に出場することが出来ました。幸いにも二種目出場し両種目とも入賞することが出来ました。

これも、子供達と一緒に練習してくれたおかげと、子供達に感謝をしています。これからも長く元気で続けて行きたいと思うと同時に、当初の夢も健康であればいつかは叶えられると信じて子供達と走りまわりたいと思います。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

Network ネットワーク

社会を明るくする運動

当会が運動に協力している「社会を明るくする運動」の推進委員会が開催されました。(推進委員：内山輝義副会長)

- 1 開催日時 平成27年5月8日(金) 13:30～
- 2 会場 県庁講堂
- 3 報告、協議 ・昨年度活動報告
・本年度事業実施計画

土砂災害防止月間
～みんなで防ごう土砂災害～

6月は「土砂災害防止月間」です。土砂災害から人命・財産を守るため、土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制の整備を推進するための取組みに協力しています。

新潟県治水砂防協会

会長(出雲崎町長) 小林 則 幸
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

テレビの番組で、千歳空港の管制官を特集していました。

航空管制で緊急事態に備える心得。その管制官のモットーは「普段の仕事は80%です。20%は遊びの生活。緊急事態が起き

たときに100%にします。遊びの余力がないと即100%にならないからです。20%は大事ですね。」

なるほどと思い、妻に話したら「あなたの場合はただ遊びただけでしょ」と冷たいお言葉。(田原)